

「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト活動報告

活動名	第22回湘南国際村めぐりの森植樹祭～宮脇昭先生 追悼植樹式～	
活動団体名	非営利型一般社団法人 Silva（シルワ）	
活動目的	<p>バブル期に開発された水源林であった湘南国際村めぐりの森の植生を復元する為、潜在自然植生種を用いた混植・密植方式による土地本来の森を再生することを目的としています。土地本来の森は、生長の過程で気温を上げる二酸化炭素と太陽エネルギーを吸収し、気温を下げる酸素を供給してくれる為、地球温暖化の直接的な対策となる上に防災林としても機能し、異常気象による地滑り・土砂崩れなどの被害の拡大を減らします。その理由より、SDGs 目標へ貢献することで森里川海プロジェクトへ協働する取り組みを目的としております。</p>	
活動内容	<p>この森林再生事業は、神奈川県のコア事業として 2009 年より取り組んでおり、官民一体の協働参加型めぐりの森づくりとなります。植樹対象地は、約 25 年前の開発により表層土が取り去られていますが、安易に土を盛り土せず、既存の木々も活かしながら、土壌の健全化へ着手します。その後、植生調査を実施し、エリア毎の潜在自然植生種を解析、その樹種による苗木を何方でも参加いただける無料の公開イベントの植樹祭として、開催しています。今回は、5 月 8 日(日)に 14 年目の第 22 回湘南国際村めぐりの森植樹祭～宮脇昭先生 追悼植樹式～と題して、30 種の苗木を 420㎡へ 2,511 本、ご来場の 529 名の方に植樹いただき、緑化面積累計 2ヘクタール・累計参加者数 10,483 名となりました。</p>	
活動写真		
写真説明	開会式後の記念の集合写真	植樹風景
活動効果	<p>植樹本数は、累計 69,802 本となり、年間約 270 トンの二酸化炭素を固定吸収しております。Silva では、炭素固定量や植生調査の解析のみならず、森の再生に関わる資材を徹底して福祉貢献と再資源化しています。東京都の使用済活性炭の再利用・建築廃材受け入れ・造園業者の廃棄予定の刈草や枝のリユース・森の中の枯れ枝を使った資材づくり・限界集落の倒木を炭にして購入</p>	

	<p>支援・苗木の優先調達による障がい者の工賃支援等、沢山の工夫があり、SDGs 目標へ貢献を可視化する為、具体的に説明が出来る様に数値化しています。また、森の再生ノウハウを次世代へ継承することにも力を注いでおり、森林再生指導員研修による認定制度のみならず、1年中、森の再生を体験できる環境を提供し、専門家と共に知見を深める環境教育を実践しており、幼児～大学生・社会人まで混植・密植に入り乱れて学びあい年間約 1,000 名が様々なシーンで森への理解を深める機会を得ています。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>現場重視の活動を今まで展開していましたが、コロナ禍で注目されるようになったオンラインツールを今後は積極的に活用し、気軽に勉強ができる機会と森の再生の広報に展開したいと考えます。また、湘南国際村めぐりの森については、環境省が令和 5 年より開始を予定される「自然共生サイト（仮称）」としての認定を目標に活動して参ります。</p>

活動日 2021 年 12 月 1 日～2022 年 5 月 8 日